

光栄の森

平成25年10月 毎月1日発行 第64号

発行者 光栄プロテック 吉竹

10月を迎えるにあたって

□

代表取締役 三田雅憲

今年は特に暑さが厳しく工場のみならず大変な日々が続きましたが、ようやくその暑さから開放されそうな予感がする今日この頃です。

皆さんもご存知の通り去る9月10日に、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、日本が沸きかえったことも記憶に新しいところでもあります。

「おもてなし」の日本の心を訴えた滝川クリステルさんのプレゼンテーションもインパクトがありました。

7年後には、東京へもしくは日本へ海外からのたくさんの選手及び関係者・お客様がお越しになることは、間違いないでしょう。当社は、ホームページでも述べておりますが、日本の伝統技術、特に『侘び寂』の世界観を建築金物部材等に表現していく集団でもあります。

今後、そうした日本の『侘び寂』を意識した建物がたくさん設計され当社の出番が目白押しになってくるのではとワクワクしております。『硫化イブシ』など若い設計士は聞いたことが無いという言葉が聞くとまだまだ当社のPRが足りない。いやぜんぜん足りないと感じております。どうにかしてこの当社の仕上げを認知していきたく思います。

そのためには営業のみならず工場のみならず来るべき時に備え個人個人の技術力及び人間性の向上、責任感・素直な気持ちなどを養い大きく貢献できるように日々努力してほしく思います。

『努力に勝る天才なし』という言葉があります。努力に努力を重ね技術に研鑽をし、場数を踏む。そして自省し改善していく。この積み重ねを、私を含め社員みんなで行っていきましょう。

『仕事や会社をこよなく愛し、身を粉にして働く気持ちを持ってもらいたい。』

辛抱強く時間をかけて人間性を磨くと同時に、能力も向上させてきた人こそ晩年にすばらしい大輪の花を咲かせる。人生とはそんなものではないでしょうか。

また私は真に会社の為を思い役に立とうと一生懸命・誠実に働いてくれる人を誰よりも大切にしていきたいと思っています。』

以上は京セラの創業者で日本航空を立て直した稲盛さんの言葉です。

仕事を愛し、会社を愛し身を粉にして働くことは、自分の家族を愛し責任を持つことの同義語ではないかと私も考えます。私自身もそういう気持ちで社員皆と努力し大輪とまではいきませんが『世界で一つの花』を咲かせればと思っております。

年末に向けて、新たなプロジェクト・工作機械関連の塗装・エレベータ塗装はたまた原子力関係・熱交換器関係の仕事が当社でできるように営業を展開して充実した正月を迎えられるようにより一層精進努力を重ねていきたく思います。